

茨城

第37回大会(書面)開催 地域の相談で組織強化へ

2021年度第37回茨城県連大会(2年に1回開催)は5月15日(日)に、新型コロナウイルスの感染拡大防止という観点から、常幹決定を幹事

に書面で提案する書面議決方式で行いました。今後の方針では、生活相談活動を通じて地域の貧困や困難を抱える世帯への支援、部落問題解決の逆流を許さない、憲法や平和、民主主義を守り発展させる取り組み、NPO法人や共済会の拡大・強化、コロナの状況を見ながら学習会や懇談会を行う、後継者育成と事務

局の維持、2024年4月15日の茨城水平社創立100周年を記念する取り組みなどを決めました。

役員は代表委員に新井直樹、間中広、永井和典の3名を再任し、常任幹事9名、幹事17名、監事2名を選出しました。

なお作家の住井すゑさんの書斎・抱樸舎・住宅の建物と土地が、遺族から牛久市へ寄贈され、改修工事を行ない、本年9月に牛久市住井すゑ文学館として一般公開される予定です。



住井すゑ文学館全景

100年前の1922(大正11)年。当時、部落内外の結婚はわずか3%と、部落住民は地域社会から排除されていました。

この理不尽な部落差別に苦しむ全国の代表3千人がこの年の3月3日、京都・岡崎公会堂に集まり、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と万感迫る思いで、全国水平社を創立しました。

私たちの部落解放運動は、「部落の不利利益は一切差別。部落民以外は差別者」と市民を敵視する部落排外主義に反対し、部落内外住民が日常的に交流、旧身分にこだわらない自由で民主的な連帯の国民融合運動をすすめてきました。市民や学校の先生を「差別者」と敵視して確認・糾弾し、親の考え方の違いで幼い子どもを保育所から排除する「同和行政の窓口一本化」を裁判闘争でたたき倒しました。

1981年6月、私たちが「表で市民や企業を糾弾し、その裏で土地転がして利権を漁る」解同書記長と市助役の行政ぐるみの土地ごらし疑惑を摘発し、その疑惑の真相を明らかにし、18万人の市民署名を集め、「乱脈不正な北九州市の同和行政」を公正・民主・公開・市民参加の開かれた同和行政に転換させました。

1969年に始まったわたしたちの部落問題の解決とは、日常生活などで部落内外の格差がなくなる。とりわけ、部落に対する偏見や誤った認識による差別が、地域や職場など周囲から「人権侵害ですよ」と批判され、受け入れられなくなっている、ことです。

法務省が昨年6月、全国を対象にした「部落差別の実態に係る調査結果

福岡 — 統一メーデーであいさつ —

部落問題を特別扱いせず、全国水平社創立100周年を部落問題解決のゴールに!

人権連北九州地区協議会

わたしたちの部落問題の解決とは、日常生活などで部落内外の格差がなくなる。とりわけ、部落に対する偏見や誤った認識による差別が、地域や職場など周囲から「人権侵害ですよ」と批判され、受け入れられなくなっている、ことです。

法務省が昨年6月、全国を対象にした「部落差別の実態に係る調査結果



報告書」を発表しました。人権侵害全体にかかわる相談件数は23万4千件です。そのうち部落問題にかかわる相談と結婚で差別の実害があったのは、わずかに8件です。実に3万件に1件の割合です。いま部落内外の結婚は9割を超え、社会問題としての部落問題は基本的に解決しています。

昨年、3月には水平社創立100周年を迎えます。ところが、2016年に国会で、自民が野党統一の分断を目論んで部落差別を固定化する法を制定、福岡県も「差別条例」をつくるという逆流現象が起っています。

人権問題の基本は憲法

13条「国民は個人として尊重される」ことです。部落問題やジェンダー問題、選択的夫婦別姓要求などは、基本はこの「個人の尊厳」の問題です。

私たち人権連は、部落問題解決の逆流現象をハネ返し、秋までの総選挙ではアベ・スガ反動内閣に代わる野党統一勢力の躍進のために全力をあげます。民主主義と基本的人権、核兵器も原発もない世界、地球環境を守り、憲法を活かすために、北九州統一メーデー参加の皆さんと共に闘うことをお誓いし、人権連北九州市協からの連帯の挨拶といたします。第92回北九州統一メーデー万歳!

オリンピックと「単一民族国家」論

関東ウタリ会 元会長 北原きよ子

寛政の改革で名を馳せた松平定信は風貌のちがいをあべつらつと、他民族と接するなど、強く戒めていた。ここでは蝦夷と呼んでいたアイヌの豊かな髪の毛を「海松のようだ」というなど戒めている。外国と交際する際、当たり前のごとだが、明治以降の日本はアイヌの主権を無視し第2次世界大戦では徴兵の対象にするほど一方的な振る舞いになっていた。

日本は「単一民族国家」と言っていたのは、つい40年前までのことだ。中曽根総理はアメリカに比べ日本は知識水準が高いと誇らしげだった。大和民族優秀論に同調するには、増加する一方の防衛費を見てもうなづけはない。アイヌはいない、という中曽根発言を見のがすわけにはいかない。「単一民族国家」論は一政治家の妄言と見のがせない力を持つていた。関東ウタリ会は中曽根氏に公開質問状を出した。アイヌがいるという会の質問状は世間に波紋をよんだ。41年たつて忘れられたとは言わないが、オリンピックを論ずるにジェンダーフリーを持ってくるなど、そこからでるかと言いたい。何かごまかしを感じる。中曽根氏は101歳で亡くなった。長寿社会にふさわしい年齢だ。長寿社会の議論を聞きたいものだ。(全水100周年を迎えるにあたって⑬)

岡山

美味しい料理に舌つづみ 春の世代交流会開く

桜が満開に咲き、春の陽気が心地よい季節となった4月4日、人権岡山の地域支部「みかどの会」は、コロナ禍での感染症対策を徹底し、会員間の連帯を深めようと「春の世代交流会」を開き会員15名が参加しました。雨模様のため、集会場での開催となりました。

桜が満開に咲き、春の陽気が心地よい季節となった4月4日、人権岡山の地域支部「みかどの会」は、コロナ禍での感染症対策を徹底し、会員間の連帯を深めようと「春の世代交流会」を開き会員15名が参加しました。雨模様のため、集会場での開催となりました。

岡崎逸夫会長は「コロナのワクチン接種がいよいよ始まるが、私たちが打てるようになるのはいつか分からない。三密に気を付けながらも、今日は日頃の思いを語りあって楽しい時間を過ごしてほしい」とあいさつしました。

特大の鉄板で焼いた「焼き鳥」「ホルモン焼きそば」や「お寿司」などが振る舞われ、好評。会員からは、地域住民のコミュニケーションや、民主化にかかわる問題や、コロナのワクチン接種などが話題に。また、「集まりが難しい世の中だけに、こうしてみんなと話し合える機会があった」との感想もありました。

3月28日、厚木で初めて「なんでも相談会」が10時より中町公園で開かれました。神権連支部をはじめ、市内の多くの団体が集まり、来場した人に無料で配布するための食料品やその他の品物を袋に入れるなどの準備をして、開催されました。

あいにく、当日は雨が雨模様で、場所が駅から離れて人通りも少ないなか、30余名が訪れまわりました。しかし、「こんなに頂いて良いのですか、嬉しいです。」と涙ぐむ

神奈川

なんでも相談会を開催

人、「フィリピンから来ているが、仕事場が休みで困っていた。頂きます。」という若い女性。仕事もなくなり、解雇され、収入がなく、ネットカフェを泊まり場にして、財布に2000円残っていた夫婦は、奥さんが妊娠していました。民商や土建の力で、仕事と住まいも決まり、嬉しそうに帰っていきまわりました。

スタッフは50名を越え、今後も続けて支援しようとの意気込みで、12時に終了しました。